

第4問

次に挙げるのは、六朝時代の詩人謝靈運しやれいうんの五言詩である。名門貴族の出身でありながら、都で志を果たせなかつた彼は、疲れた心身を癒やすため故郷に帰り、自分が暮らす住居を建てた。これはその住居の様子を詠んだ詩である。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

樵(注1) 隠(ア) 俱(ア) 在(ル) 山(モ)

由(注2) 来(注2) 事(注2) 不(注2) 同(注2)

不(注3) 同(注3) 非(注3) 一(注3) 事(注3)

養(注3) 痾(注3) 亦(注3) 園(注4) 中(注4)

園(注5) 中(注5) 屏(注5) 氛(注5) 雜(注5)

清(注6) 曠(注6) 招(注6) 遠(注6) 風(注6)

B(注7)
ト(注7) 室(注7) 倚(注7) 北(注7) 阜(注7)
啓(注7) 扉(注7) 面(注7) 南(注7) 江(注7)

せきと たにがは
メテ ヲハ
へ くムニ
ニ
うエテ むくげヲ
ツ
ころな
ルニかきニ

激レ澗 代レ汲井 挿レ槿 当レ列墉

群木 既ニ羅戸ニ
衆山 亦タ対スレ
Cニ

D (注8) 靡迄 趨ニ下田ニ
(注9) 迢迢 瞰ニ高峰ヲ

靡迄 趨ニ下田ニ 迢迢 瞰ニ高峰ニ

(イ)

寡レ欲ヲ 不レ期セ 勞ヲ 即レ事ニ 罕ニ人ノ 功ニ

唯開ニ 蔣生徑ニ (注11) 永懷ニ 求羊蹤ニ (注12)

E (注13) 賞心 不レ可レ忘
カラ ル
(注14) 妙善 冀能 同
こひねが
ハクハ
よく
ともニ
コトヲ

『文選』に於ける

(注)

1 樵隱——木こりと隠者。

2 由来——理由。

3 養_レ痾——都の生活で疲れた心身を癒やす。

4 園中——庭園のある住居。

5 氛_レ雑——俗世のわずらわしさ。

6 清曠——清らかで広々とした空間。

7 ト_レ室——土地の吉凶をよって住居を建てる場所を決めること。

8 靡_レ迤——うねうねと連なり続くさま。

9 迢_レ遞——はるか遠いさま。

10 罕_ニ人功_一——人の手をかけ過ぎない。

11 蔣生——漢の蔣詡_クのこと。自宅の庭に小道を作って友人たちを招いた。

12 求羊——求仲と羊仲のこと。二人は蔣詡の親友であった。

13 賞心——美しい風景をめぐる心。

14 妙善——この上ない幸福。

問1 波線部(ア)「俱」・(イ)「寡」のここでの読み方として最も適当なものを、次の各群の

①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

29

・
30

。

(66ページ)

(ア)「俱」

29

- ① たまたま
② つぶさに
③ すでに
④ そぞろに
⑤ ともに

(67ページ)

(イ)「寡」

30

- ① いっはりて
② つのりて
③ すくなくして
④ がへんじて
⑤ あづけて

問2 66ページの傍線部A「由来事不同、不同非一事」について、(a)返り点の

付け方と、(b)書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤の

うちから一つ選べ。解答番号は

31。

① (a) 由来事不同、不同非一事

(b) 由来事は同じからず、一事を非とするを同じうせず

② (a) 由来事不同、不同非一事

(b) 由来事は同じからず、同じからざるは一事に非ず

③ (a) 由来事不同、不同非一事

(b) 由来事は同じうせず、一に非ざる事を同じうせず

④ (a) 由来事不同、不同非一事

(b) 由来事は同じうせず、非を同じうせずんば事を一にす

⑤ (a) 由来事不同、不同非一事

(b) 由来事は同じうせず、非とするは一事に同じからず

(下書き用紙)

国語の試験問題は次に続く。

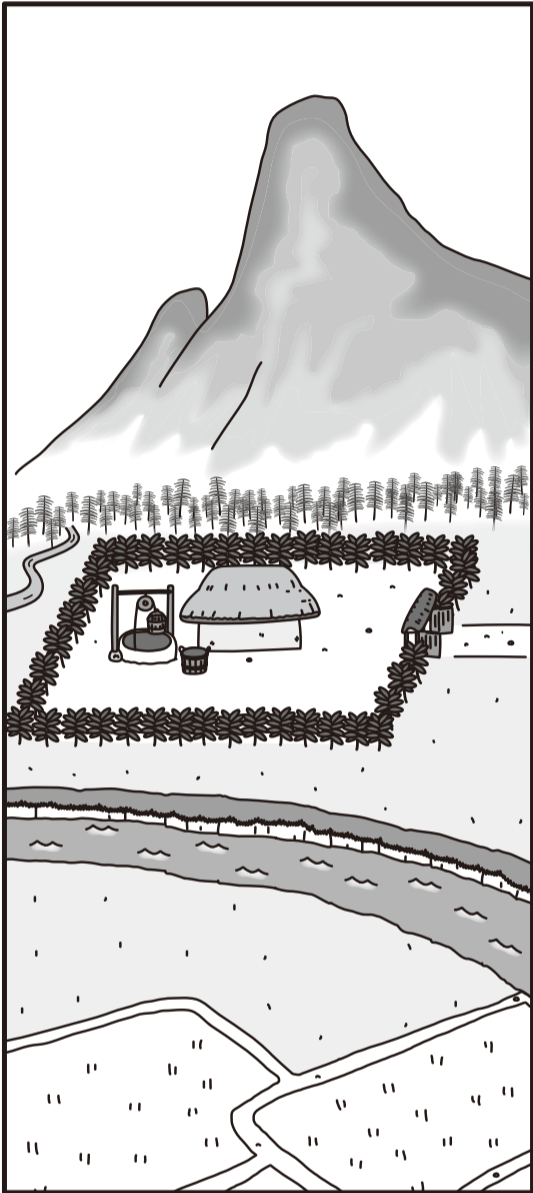
問3 66・67ページの傍線部B「ト室倚北阜、啓扉面南江、激澗代汲井、

挿権当列墉」を模式的に示したとき、住居の設備と周辺の景物の配置として

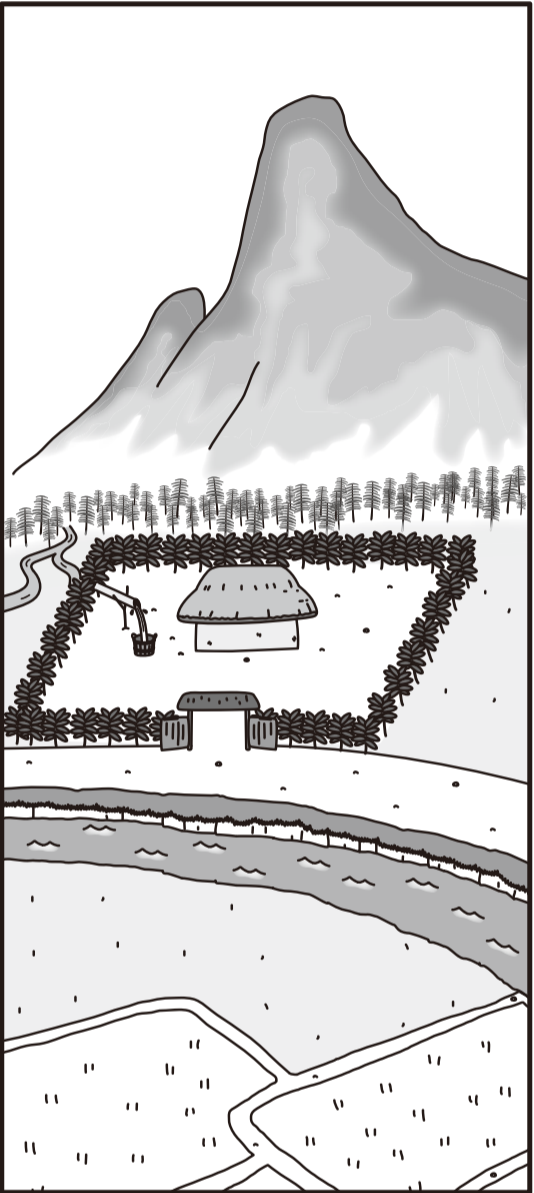
最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

32

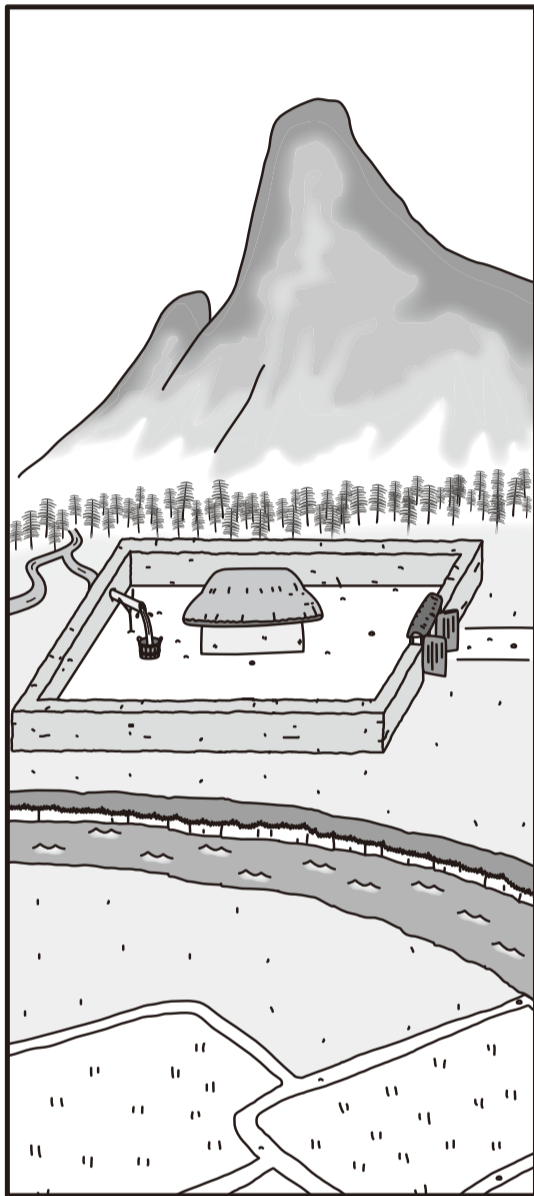
①



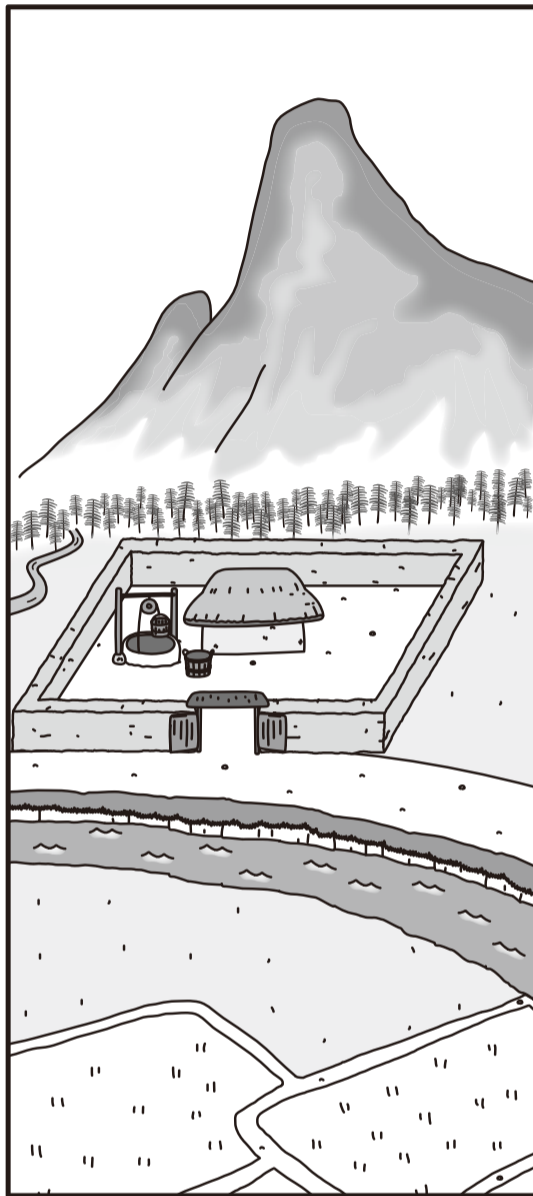
②



④



③



問4

67ページの空欄

C

に入る文字として最も適当なものを、次の①～⑤の

うちから一つ選べ。解答番号は

33。

- ① 窓
- ② 空
- ③ 虹
- ④ 門
- ⑤ 月

(下書き用紙)

国語の試験問題は次に続く。

問5 67ページの傍線部D「靡迤趨下田、迢遞瞰高峰」の表現に関する説明

として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

34

① 「靡^び迤^い」という音の響きの近い語の連続が、「下田に趨^{おもむ}く」という動作とつながることによって、山のふもとの田園風景がどこまでも続いていることが強調されている。

② 「靡迤として」続いている田園風景と「迢^{てう}遞^{たい}として」はるか遠くに見える山々が対句として構成されることによって、住居の周辺が俗世を離れた清らかな場所であることが表現されている。

③ 「迢遞」という音の響きの近い語の連続が、「高峰を瞰^みる」という動作とつながることによって、山々がはるか遠くのすがすがしい存在であることが強調されている。

④ 山のふもとに広がる「下田」とはるか遠くの「高峰」とが対句として構成されることによって、この詩の風景が、垂直方向だけでなく水平方向にもものびやかに表現されている。

⑤ 「趨く」と「瞰る」という二つの動詞が対句として構成されることによって、田畑を耕作する世俗のいなみが、作者にとって高い山々をながめやるように遠いものとなったことが強調されている。

問6 67ページの傍線部E「賞心不可忘、妙善冀能同」とあるが、作者がこの

詩の結びに込めた心情はどのようなものか。その説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

35。

① 美しい風景も、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめると、さまざまな見方を教わることがあるので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか遠慮なく何でも言ってください。

② 美しい風景は、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめても、その評価は決して一致しないので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか私のことはそっとしておいてください。

③ 美しい風景は、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめてこそ、その苦心が報われるものなので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか我が家のことを皆に伝えてください。

④ 美しい風景は、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめてこそ、その楽しさがしみじみと味わえるものなので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか我が家においてください。

⑤ 美しい風景も、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめないと、永遠に称賛されることはないので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか我が家を時々思い出してください。